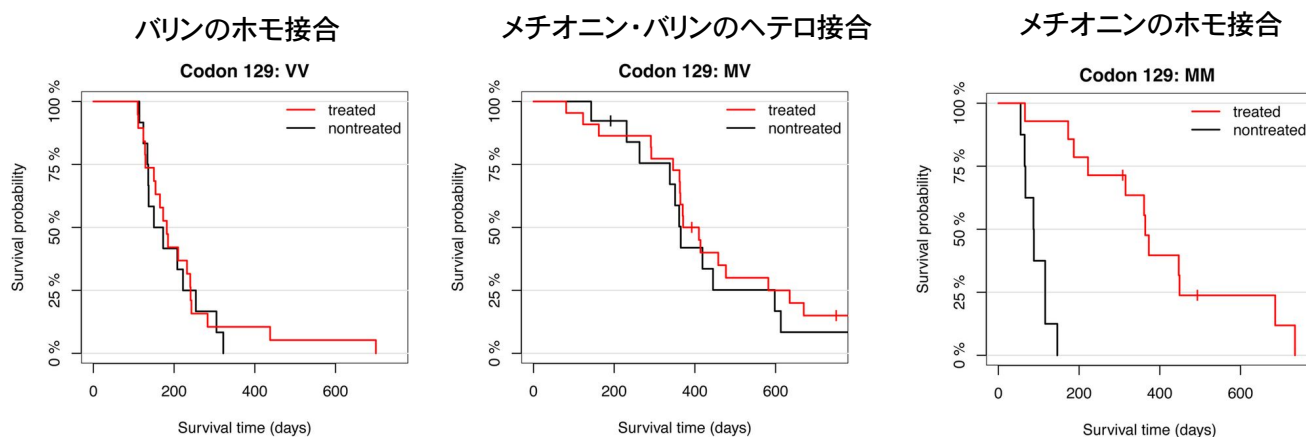


診療ガイドライン「プリオン病の治療」に関する情報収集

研究分担者： 東北大学医学系研究科 堂浦克美

ドイツにおけるドキシサイクリン治験に関する情報

プリオン蛋白129番アミノ酸とドキシサイクリン効果の関係



グラフの縦軸は生存率(%), 横軸は発症から死亡までの期間(日)をしめす。
赤線はドキシサイクリン投与群、黒線は非投与群をあらわす。

Varges D, et al. J Neurol Neurosurg Psychiatry
doi:10.1136/jnnp-2016-313541のFigure 3を一部改変

解 説

1. ドイツで実施されていたドキシサイクリンの治験に関する結果が報告された (Varges D, et al. J Neurol Neurosurg Psychiatry doi:10.1136/jnnp-2016-313541)。
2. 非盲検法による治験において、ドキシサイクリン(100 mg/日、経口投与、連日)投与はプリオン蛋白129番メチオニンのホモ接合患者では生存期間を延長する可能性が示唆された。
3. しかし、プリオン蛋白129番メチオニンのホモ接合患者には、急速に進行する病型と緩徐に進行する病型が混在していることから、ドキシサイクリンの効果の実証にはさらに詳細な検討が必要がある。